菊地秀行 著『吸血鬼ハンター7　北海魔行〔上〕』より

ミローネンベルグ
『辺境』の中央から200キロほど北へ入った平野部に広がる街
『都』の規模には遠く及ばぬ 人口３万の小地方都市にすぎないが
辺境各地から送られる物資の集散地として 街道も整備され
四季を問わずそれなりの活況を呈している

やっぱり都会は
人が多いわね…
！
ドキ
ドキ

なんて素敵な人…
失礼
お嬢さん？
何か落としたようですぞ？
え？
チっ
あっ…

……
真珠？
か 返して
ください！

はいよ
気をつけな
君のかい？
ありがとう
ございます

クローネンベルグは
初めてかい？
何処へ
行くんだい？
あの…
「サイラス骨董店」
へ…

あー
さっきの…
悪いが
それほど価値が
あるようには…
お嬢さん
ひょっとして
フローレンスから
来たのかね？
…なぜ
ですか？
さっきのは
真珠じゃろ？
あんたからは
潮の匂いがするし
その装飾りは
獅子魚の骨で
作ったものじゃろ？
あそこの
特産品じゃ
おっと
これは失礼
正式な
学位では
ないがね
わしは
クロロック教授

おれは
トトだよ
なあ
なんなら店まで
案内しようか？

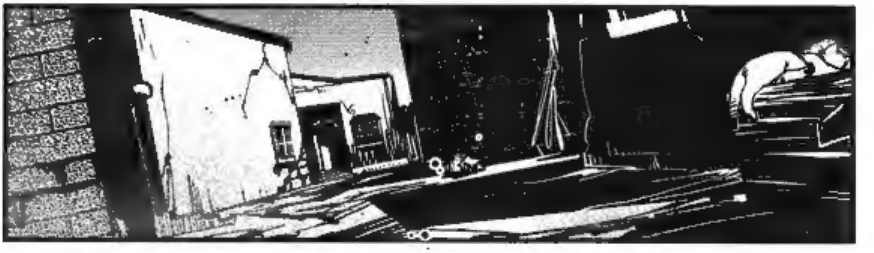
あ…
ウーリンです

案内には
及ばんよ
店はほれ
すぐそこじゃ

そこを
真っすぐ行って
突き当たりを
右じゃ
ちゃんと
看板も出とる

それじゃ
ありがとう
ございます

……
ちっ
余計な
ことを…
こそ
ドロめ…



サイラス骨董店
…鑑定が希望だったね？
はい
何処で手に入れたね？
家の近くの海岸よ
海か…
よく調べてみなきゃわからんな
預かっていいかい？
とのくらい？
そうさな——明日の昼までだ
預かり証を書いてくれるといいとも
それじゃ明日のお昼ぐらいにまた来るわ
ガチャ
……
ガチャン

そうか…
思い出したぞ
…確かあの本に
これは貴様の……
こうしちゃおれん
知らせねば
ズザ
ズザ
ズザ

ジャラ

たっ
たっ
たっ

へえ
何か知らんが
タイヘンな
ブツなんだ？
ズリ

済まねえが
こいつは
いただいていくぜ
あの姐ちゃんに
よろしく伝えてくれ
——じゃあな

たっ
たっ

おじょうちゃん

わしは
ギリガン
この街の
世話役をさせて
もらっておる
少々訊きたい
ことがあって
来てもらった
何？
この人…？
こっ…
ここから
出して
その前に
鎖から自由に
してください
おうおう
話せばすぐだ
あの機械で
身体を
支えてないと
崩れちゃう
んだわ
きっと…
何が
訊きたいん
です？

まず――
あんたが骨董屋に
持って行った
例の珠だ
何処で
どうやって
手に入れた？
あのお店の
ご主人…
わしの息が
かかっとってな
一年に一度か二度
自分でも気がつかんで
金目の品を
持ち込む奴がおる
主人がわしに知らせ
わしが適正価格で
買い上げるって寸法だ

返して
返して
ください
それが今
わしのところにも
ないんだよ
盗まれ
ちまってさ
なに
盗った奴も居所も
わかっとるから
じきに回収
できるだろう
その前に
おじょうちゃんには
色々と教えて
もらわにゃならん

私は何も知らないわ
あの珠のことなんか
ピク!!
貴族

ほれやっぱり知っとるでないの
おうおうこら愉しみになってきた
私に何を訊いても無駄よ
話す事なんかないわ
おうおういいともいいとも

無理にしゃべれなんて言っとらん
むしろしゃべってもらわん方が愉しみが増えるのだよ

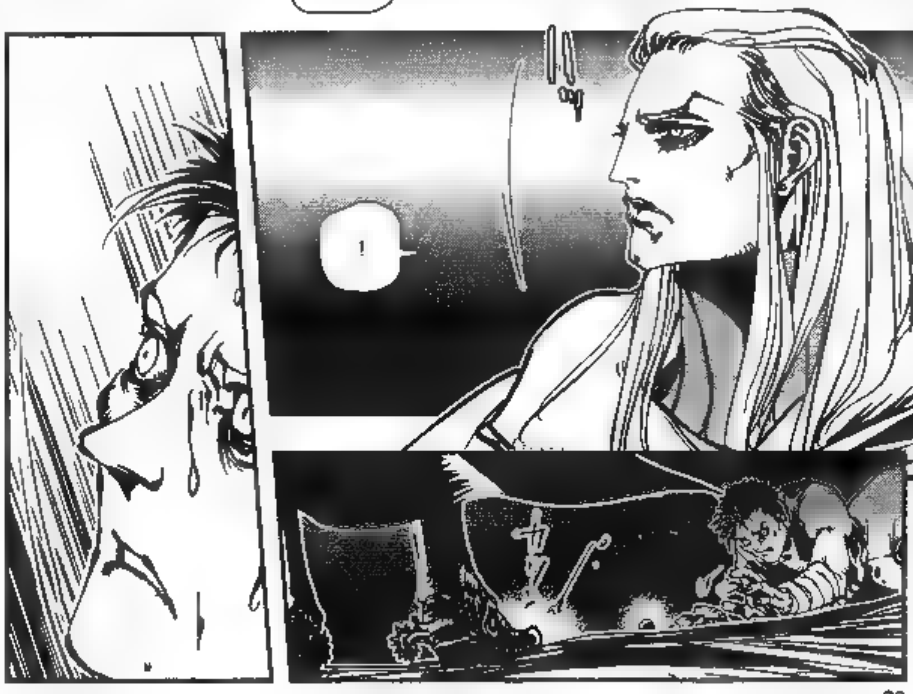
いや
いや
いや
いや
いやあああああ
ガチャガチャ
ドン!

さがせ！
逃がすな
ちっ
いいとこだったのによ
この珠…
ヤツら…ギリガンとこの手下だって言ってたな
あの娘ちゃん…無事だといいが
いたぞ！

ドドドド
ぐ
ギロ
ぐるぁ!
なぁ
ニヤリ
ニヤニヤ…
ふ…

……なっ？
！
しまった…
他にもまだ…？
コロロ…
ポン

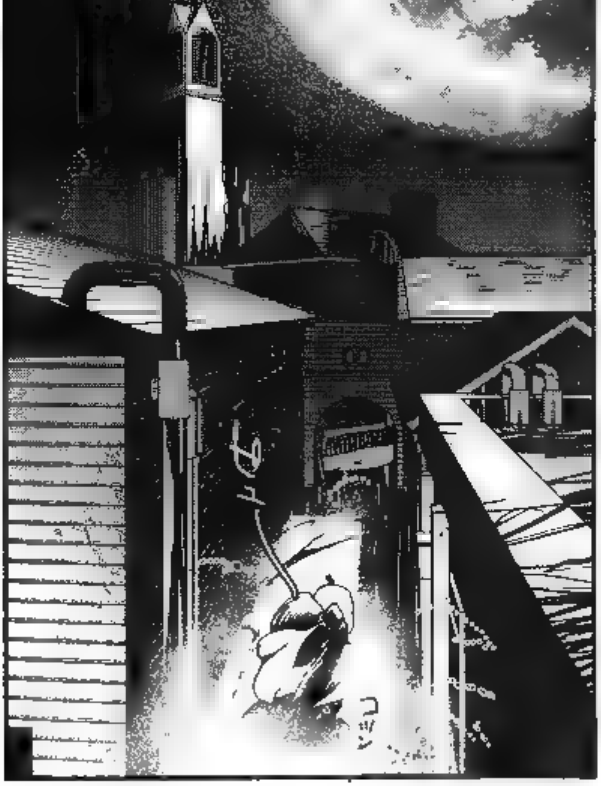
なんでそうなるんだっ!?
やつらの仲間じゃねえのかよ?
屋根の上を逃げ回りおかしな術を使う胡乱な奴
治安局のところへ連れて行く
山笛ふざけやがって

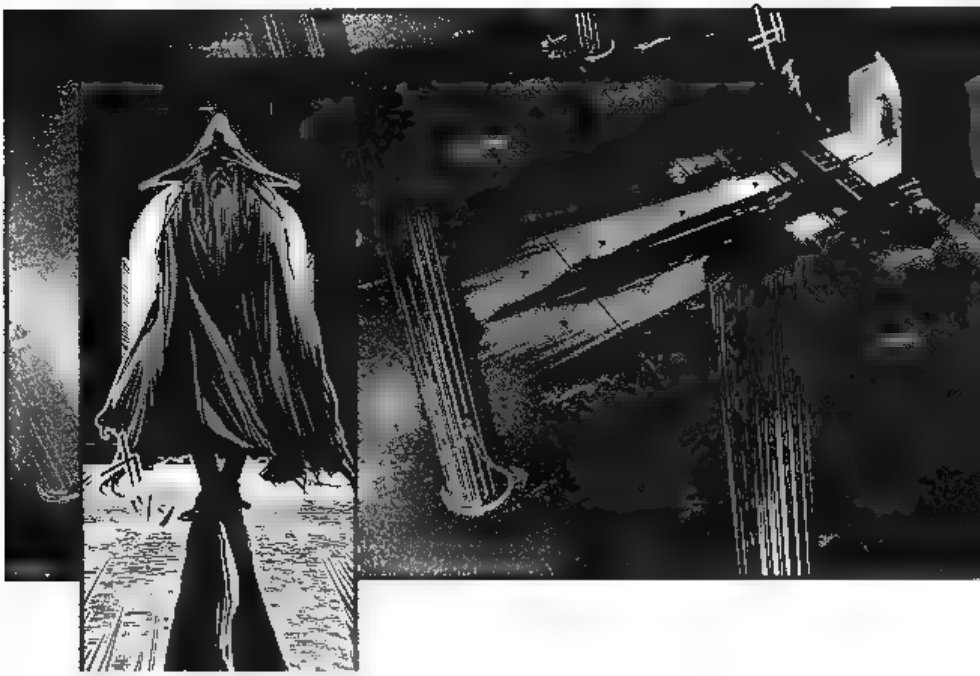

!

やべぇ…
一瞬
見とれたぜ
いや…
残念
だったな
貰いもんさ
お…？
おまえの
ものか
——なあ
申し訳ねえが
あんたに
頼みがある

おれはこれで失敬するがその球の持ち主を助けてやってくれねえか
代償はそれだ
大した値打ちもんだそうだぜ
断っとくがちゃあんと後で頂きにいくからよ
ヨロ
ギャッ!!
場所はギリガンって悪党の商会…
たぶん地下室だ
頼むぜ
……

どうする？
行く気か？
さて
おれより美しい男——はじめて会った
そして名前も知った
その名に対して名乗る
おれはグレン
吸血鬼（ヴァンパイア）ハンター"D"
——修行者だ





ぴゅ
悪い事を…
誰かに刺されたか
…助け…て……
……このこと…私の…勝に
…誰を…取り…返し…て
わかっておる

カラン

取り返して
やるとも
必ず な
くく さして
難しい技
ではない

……

おまえ——
何時(いつ)から
そこに？
どうやって？

!?

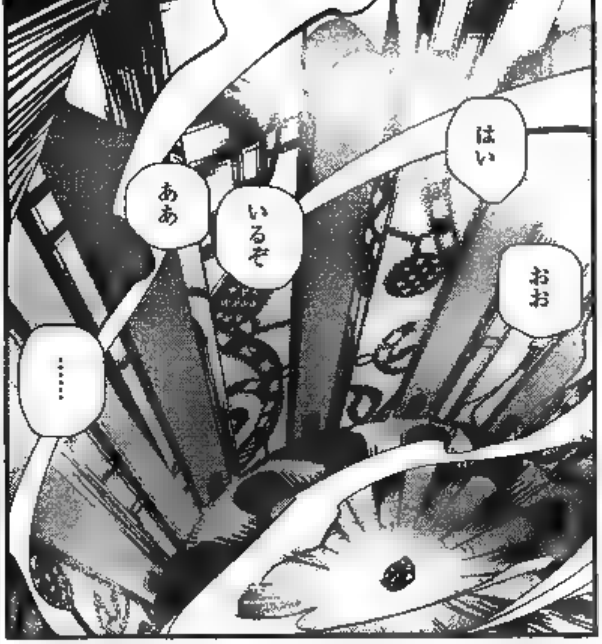
何をしに来た？
この娘のゆかりの者か？
断っておくがわしは娘を奪い取っただけだ
指一本触れてはおらんぞ
…それは…

いや
わしはこの娘に
頼まれたんじゃ
その珠を
探してくれと
この娘の名は？
姉は何処にいる？
だから
このわしが
届けてやろう
!?
貴様
――珠をどこへ
隠した？
姉は何処に
いる？
……
おまえが
体内反応を見たとき
この娘はすでに
死んでいた
それでも
願いを告げた
聞いていたのは
おまえだけではない

ほう
つまり
珠を返すのは
おまえでもいいと
こういう理屈か？
わしは
…知らん
見ておった
はずだ
おまえは
娘を知っている
わしを…
無関係のわしを
斬る気か？

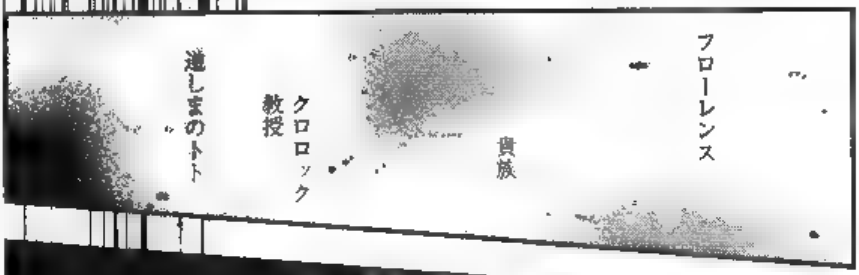
最後に臥こう
娘の名は？故郷は何処だ？
娘の名は…ウーリン
故郷は……たしかフローレンス
その離れ
ギリガンの館

ギリガンだ
いるかい
エグベルトさん
サモンさん
シンさん
フィンさん？


はい
おお
いるぞ
ああ
……

……

仕事だ
ある「珠」を探して欲しい


フローレンス
貴族
クロロック教授
逃しまのトト

吸血鬼ハンター"D"

いよいよだぜ
こんな薄汚え仕事や人間どもとはおさらばだ
いよいよおれの■いが叶う
……おめえ・

カチャン
カチャ!
……Dさんかい?
ウーリンという娘を魔虫に咬ませたのはおまえか?
おめえ…どうしてここへ?
…あの娘とはすぐに別れた…
…と…庭の護衛犬は?
まさか……おまえも……あの珠を?

残念だったな
こいつはゼラム製でできてる
わざわざ遠くへ持ち出したんだぜ
レーザーだって1~2分切り込むのに一時間
しくじったわけではない

あが…
か…顔が…
くずれ…
"振りべ"に刺されたものは30分以上苦しみ抜いて死ぬ
!

……
畜生
……痛えよ
くそう…
こんなこっちゃ
…死なねえぞ…
…しまだ…
もう少しだ
…畜生
こんなところで
くたばって
たまるか…

数千日もの間の氷雨を渡るフェリー船
北の地へ向かうための
欠くてはならぬ乗員この上ない文明の利器だ
ゴオオオ

こらあ
何をする!?
申し訳
ありません
お許し
ください
子供のした
ことです

許せんなあ
その鬼は
おれの大切な槍を
蹴飛ばしたんだぞ
おれの商売道具に
傷でもついたら
どうなる？
いざというとき
生命取りになる
恐れがある
どうか
これで
勘弁に…
ふざけるな！
何でも金で
決着をつけようって
根性が気に
入らねえなあ
ブン…
ブン…
ブン…
親子ともども
礼儀を教えて
くれるぞ！

おとしなさいよ
大の大人がみっともない
まったくです
他の人に当たったらどうするつもりなのさ?
もうおとしなさい
やるんなら目的地へ着いたときにすればよかろう
なんだてめえらは!?
邪魔するな

ほうれ
後がないぞ
ガシッ
ガシッ
ドドド
ドドド
19

どう？
大した装じゃないけれど鞭先を折るくらいはできるわよ
大事な商売もんじゃないの？
ぐぐ…
ぬうっ
!?
どうだ女？このまま水に浸けてくれる
心臓感覚は遮けられんぞー
離せば空中で串刺しだー
あっ小鳥
キッ！

おじちゃん
――助けてよお
!?

!!
魂が消えー
ぬ 魂魄じゃ
ぬぐっ
ぬ
魂魄さえあれば小生にもうったつくりだろうが

…ぬう
さすがは吸血鬼ハンター"D"
よくぞ見破った
見事ながら人違いだ
人形？
本物は…
あちらがお目当ての男だ
：おれなど足元にも及ばぬ美男だな
おれはグレンという
！！

ギリガンの手のものか？
わしは
そうとも
とんだ
…そうだったのか

はっはっは
この雲も"使徒"よ
わしの他に4人が村へ向かっておる
名前だけ教えておこう
エグベルトにサモン
暁鬼
ツィンという
それぞれがおかしな術を使うギリガンに見込まれた用心棒よ
いずれまた会おう
片手の怨みはその時晴らす——

フローレンス村へは
どう行けばいい？

日暮れに
行くのは
およしなさい
あの村の近くは
元貴族の館だ

今でも夜になると
おかしなこと
ばかり起きます
……
フローレンスに
御用？
行くんなら
同行させてよ
私も
息がなくちゃ
ならないのよ
また
会いましたな
それは
こっちの台詞
私
スーインと
申します
よろしく
足手まといに
なったら
置いていくぞ

こちらは
蜜暁さん
この辺に布教に
みえられた
そうなので
一緒に
よろしく
お願いする
三叉神聖教の
開祖・蜜暁と
申します
と言っても
わし以外の
信者のいない
新興宗教ですが
――
あなたは――
Dだ
そう
Dさん
だったわね
格好いい
名前
寂しそうな
星に似てるわ
おお寒っ
――これで
夏だと言っても
雪から来る人たちには
信じてもらえない
でしょうね
特にフローレンスは
天候制御装置の設定で
夏は7日間しか
ないのよ
ちょうど
4日後から
一週間の夏が
始まるわ
……

いけない
こんなこと話してる場合じゃないわね
行きましょうか
ドルルン!!

ほのかに光っている？
これが貴族の道…

まっすぐ山をぶち抜いてフローレンスへ続いてるわ

正当なルートだと明日の昼までかかるけどこっちなら朝までに着くからね

壊そうとしたんだけどだめだったんだって
それで上から土をかぶせてあるのよ

ガロロ…

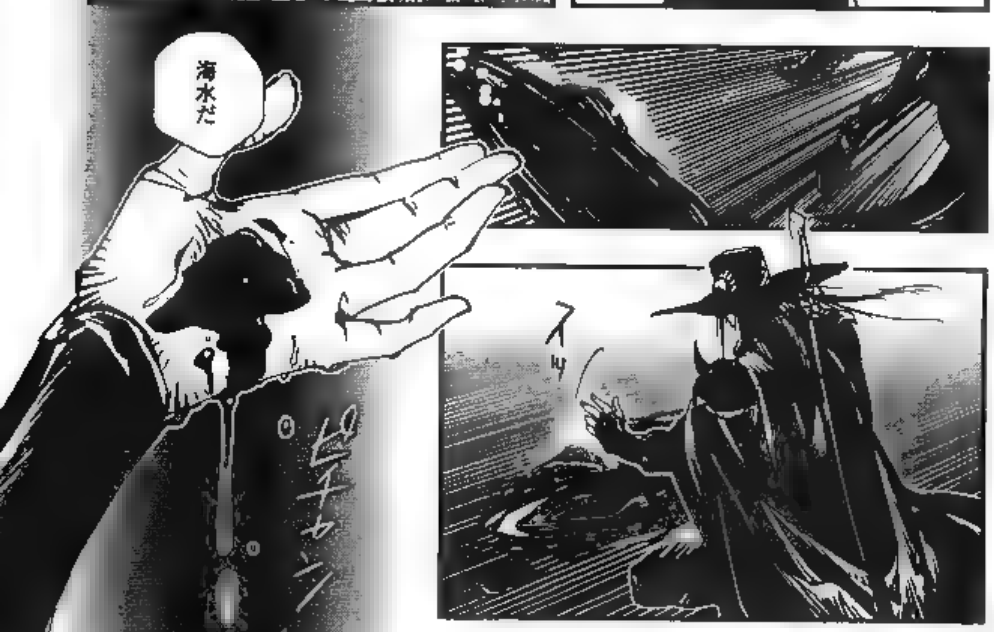
いや
妖気が
濃くなって
まいりました
あの方が
いて重畳
本当
にね
大した男さ
船で
たしか
吸血鬼ハンター
だって…
多分
光なんかなくても
あの山道を難なく
いっちまったろうね
まさか
こんな
真っ暗闇に…
果たして
何者であるか？
船に居たあの男も
いい男であったが
彼の神秘感には
遠く及ばん
なんと言うか
異形の血が
混じっている風な…
トンネルよ
…かも
しれない
わね
おっ
あれは…
これも貴族が
造ったの
一万年以上前に…
この辺一帯は
貴族の狩猟場
だったのよ

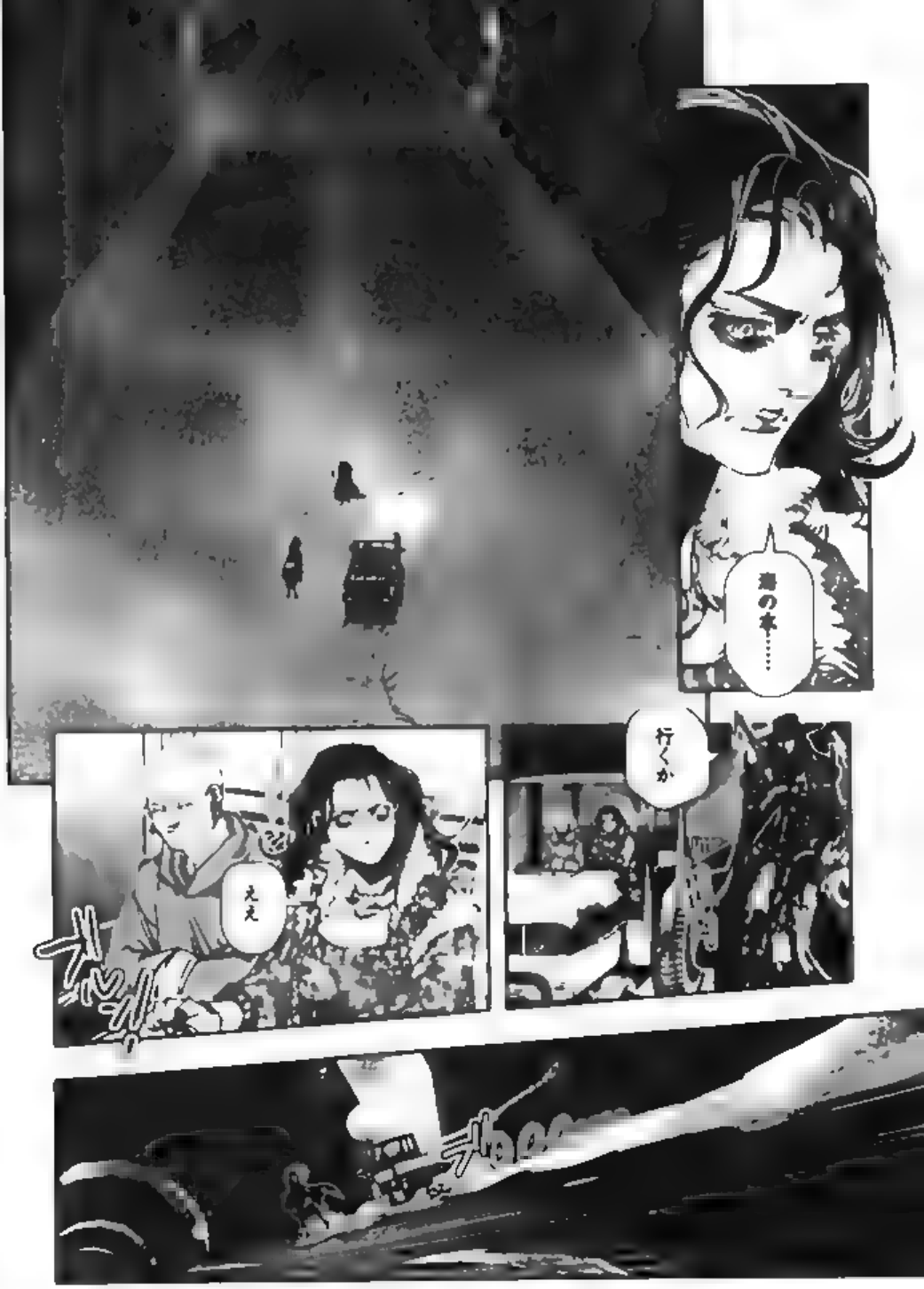
危ない！
D——
今のは何？
形は
人間だ

形はっ
向こう側が透けていた
幻覚かホログラフィ映像かもしれん

――心当たりはないか？

この辺りは貴族の猟場だったそうよ
死霊かしら？
何とも言えんが


海水だ
ピチョン
ハッ

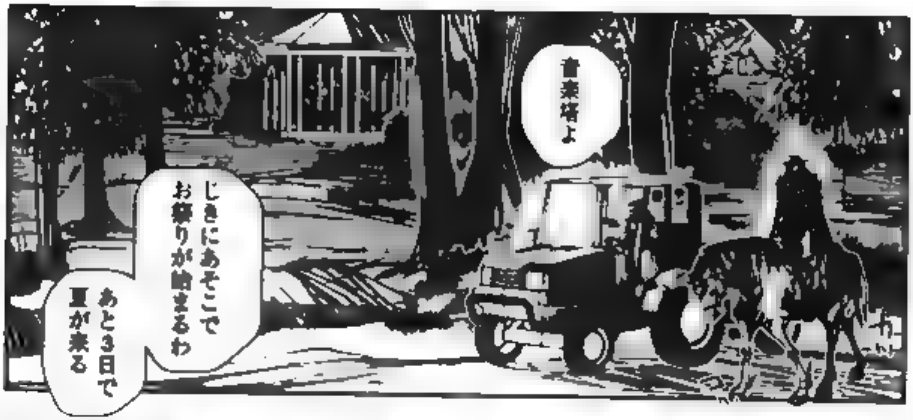

雨の中……
行くか
ええ

フローレンスよ
沖に白く光ってるのは氷塊(ひょうかい)
とうとう着いたわね
ねえ
ここまで来たら訊いてもいいでしょう
フローレンスの何処へ行くの？
ウーリンという娘の事だ

姓の方は
ご存知？
いや
何のために
その娘の家へ？

知り合いか？
…こんなことを
言っちゃ
申し訳ないけど
あなたから
その名前をききたくは
なかったわ
ウーリンは
私の妹です

お世話になった
神のお赦しのあらんことを


音楽塔よ
じきにあそこで
お祭りが始まるわ
あと3日で
夏が来る

ようこそ
参られた
わしは
ハンと
申します
孫娘の友人は
わしの友人じゃよ
それで
娘は…
―死んだ
のね？
そうだ

…この珠のせい？
多分な
家に届けてくれと最後にそれだけをきいた
受け取りたまえ
殺したのは誰？
そいつは？
死んだ
船上で会った傭兵使いとその仲間を派遣した町のボスだギリガンという
あなたが仇をとってくれたのね？
そうなるかな

知る限りの事情を話そう
待って
おれの用は済んだ
コーヒーをありがとう

このまま去ってしまうの？
用は済んだ
この珠を狙って恐ろしい連中が村へやって来るわ
いえもう来てるでしょう
――お願い聞いて
珠を渡せ
どんな値打ちがあるにせよ生命には代えられまい
出来ないわ
妹が生命を代償にあなたに託した品よ
おれの相手は貴族だけだ
この村にも貴族はいるのよ

初耳だ
村の秘密よ
外へは洩らせない
貴族がいるというだけで魚も貰ってもらえなくなるわ
どんな貴族だ？
それはこれから話すわ
――待ってその前に珠を仕舞うから

お待たせ
何処へ仕舞った？
いつもの函の中よ
どなた？
スーイン？
おれだドワイトだ

大変だ
さっき
崖の下の○○に
○○さんの
死体が上がった
"最悪なこと"
言わない
で——

よく化けた
ギリガンの5人組のひとりかッ
声が変わった、若い…
ほう知っていたのか
なぁいつからバレてた？
誰の雇い場所を訊いたな
あちゃあ…
おれは"撃られずのフィン"
懸賞首ハンター"0"とわかったときから厳な手筈がしていたぞ

親さんを殺したのはおまえかぁ
あ…ありゃあ？
親さん!?
偽者よ
へ？
そうともよ
同じ人間が二人いちゃあまずいだろ
おお痛ぇ
!?
だがこうでもしなけりゃ逃げられそうにねえやな

野郎 待て！
ねり。。。
おかしな 手応えは コレのせいか
ワザと隙を 切らせおったな
あやつの 体験の ようじゃの
去っち まったぜ
100度以上も ある用水路に 飛びこみ やがった！
化け物めが

誰だい
こちらは？
後で紹介しようと
思っていた
けれど…
―Dさんよ
クローネンベルグの町で
ウーリンと
知り合って
伝言を持って来て
下すったの
戦士よ
この上
流れもんの
腕自慢かよ
夏の祭りにゃ
招待してねえぜ

よしてよ
そんな言い方
私が頼んで
来てもらった
のよ
でどう
するんだ？
君さんの
死体は？
すぐに
引き取りに
行くわ
――暴いけど
外に出てて
私――
ひとりに
なって
しまった…
ハハハ
ゴッ
ガッ

あなたに預けておけば私は安全

――ありがとう

血の匂いがするわね
やられたな口ほどにもない
しくじった
スキン・ベールで刃先を封じたのにこのザマだ
世の中捨てたもんじゃないなあんな恐ろしい奴がいるとは…
あれがダンピールの力ってヤツか？
しゃくにさわるがここはやはり皆でかかった方が無難だ
傷(きず)ると早死にするだけだぜ
自分の未熟を棚に上げて勝手な事を言わないでちょうだい
老人と小娘だけと知ってお互い敵対しながら奪い合うのも馬鹿らしいと
ツィンに行かせたけれどどうやら登り占めを考えた方がよさそうね
わしはそうは思わんな
その用心棒を片付けたものが優先的に報酬をいただくと
シン あんたもなの？
怖気(おじけ)付いたのね

とにかく
一致団結の
お付き合いは
これまで
私は好きに
やるわ
だそうだ
おれもだ
…暁鬼は
どうする？
……俺もかも
私が貰う
――そいつの
生命(いのち)も
その珠とやらも
面白いこと
皆
仲間にやられても
文句の言いっこは
なしよ

…治安官事務所に死亡届を出しに行かなきゃ…

この辺一帯は貴族の別荘がたくさんあったの
人間は貴族のリゾート地開発と同時に連れて来られたらしいわ
光波ヨットや重力ヨットでセイリングしたり水素での自転車で歩したり……
なかでもいちばん気になっていたのは地中生物の変態と大繁殖よ
博物館の記録室に行けば当時の資料が見られるけどそれはいやよ
10億匹ずつもあるコロニーが3つ
労働はすべて機械がするけど細かい点はどうしても人間の召使いは欠かわないらしいの
莫大な人間の召使いを何人かかえているかがこの辺の貴族のステイタスであったのね

その他にも色々と使い途はあった
それはわかるわね
そのうち
少人数の
入所
始める事にし
そして
血を吸
町の
心臓
その

言い伝えはないのか？
言い伝えではこうよ

ひとりを除いて？
その名はマインスター男爵
この地方の貴族を任意にして一晩にして滅ぼした大魔術
その魔術生んだもとすいい
戦いは貴族たちの別荘がマインスターの城で行われたわ
マインスターは殺され二度と陸へは現れないような処置をされた上で死体は永劫に海へ投棄された
貴族たちの別荘が一晩にして灼き果て
あらゆる生物が死に絶えた上由の形まで変わるような凄い戦いの結果

旅の男は
その後人間が
海辺で生きられるように
ほとんどの生命を終末し
貴族のコントロールも解いて
ひっそりとされているわ
だからおかしい

なぜなら彼は
日の差さぬ深海の底を
隅みしながらうろつき
時たま月の光を浴びては
栄養をとって
黒い霧人への進化
を企んでるというけど
これこそ伝説ね

だが
貴族はいる

わかりません
でも——

マインスター
男爵という奴か？
顔は——
違うわ
博物館の
肖像画を
見たもの

いつから
出る？
3年前から
素性と
棲み家は？

あのトンネルの中の幻――
あいつだな？
現場には海藻と海水が必ず残っていたわ
それと…みな溺れ死にのものばかり
マインスターの復活か
村では…
たから
先生！
ぱた
ぱた
あっ先生だ！
先生――いつから？
学校いつから？

そうねえ
暑いけど
今年は
できるかなぁ
ごめんね
また今度ね
あほら
あれ見て
学校よ
今年の夏の初日
完成をめざして
目下突貫工事中！
私 漁の合間に
夏だけ学校を
やってるのよ
ここの子供達は
何でも
知りたがるわ
あの年になるまで
灰色の海と
一週間の夏しか
見た事がないから
教師は
来るのか？

毎年の夏
また——
あいつは来たわ

ウーリンは
その話も持って
クローネンベルグへ
出かけたのよ

珠の由来を
きこうか

最後のひとりは
私の家の
すぐ隣の
女性だったの
寒い冬の
自分は
人買いに
売られた

殴打ち際まで
途中で
奴の姿は
消えてしまった
あちこち探したわ
逃げたら
奴を追って
海岸へ
怒から

応援が来たんで
引き揚げようと
したとき
波が異常に
何かを感じたの
ドドド
それが
あの床だったん
ドドド
ドドド
ドドド

妹に
殺せたかった
のか？
私もよ
ブロロロ…

あいつか
戦闘士だって？
スーインちに
泊まってるんだって？
……
黙ってていいのかよ
ドワイト？

んっ

スーインなら
来てすぐに
裏口から
出て行ったぞ
誰か
知り合いが
呼んでるとか…

ケケ
ふたったの

こっちよ
緋さん…
こっち…
ここまで
来れば
もう悪魔は
入るまい

ちっ
厄介な
真似を
くくく
それにしても
あの用心棒…
確かに恐ろしい奴
とても
正面からは
やり合う
気にはなれぬ
だが
いかなる敵でも
この世に生を享けた以上
こころの中には
拭いがたい
誰かを秘めておる
それを持つ以上
この"思い出サモン"の術
「ノスタルジィ」の
敵ではない
——では
試こうか
珠は
何処にある？
珠は何処に
あるの？
結さん
教えて
Dに
預けたわ

現にこの女もくく
男を招き出しおった
ウーリン？
女??
……嘘ではない
嘘のはずがない
女——あの珠の正体は何じゃ？
わからないわウーリン
珠の正体を知るものは？
いいえ
…そうか知らぬか
——他に珠はあるのか？
村のものは珠があることも知らないわ
誰も

そうか
なら
珠さえ手に入れれば
この村に留まっても
仕様がないわけだ
とりあえずは
おまえを囮にして
あの若造から
珠を手に入れる
ことにしよう
――おいで
来て
さあ
!?

あなたは!?
誰!?
扉が開けた――!?
いいからおいで!!
ドン
ぐわっ!

Vampire Hunter D

ヴァンパイアハンターD

原作 菊地秀行

作画 鷹木骰子

7

Vampire Hunter D

菊地秀行 鷹木骰子

7

9784840150798

ISBN978-4-8401-5079-8
C9979 ¥667E

1929979006679

定価：本体667円（税別）
雑誌52654-79
メディアファクトリー

その瞬――
おまえ 戦闘士 なのか!?
まりたまえ
そして どこやの国から 身を投げて 美しく死ぬがいい
深く青い 海の底こそ 君の墓に ふさわしい
行きなさい
!?
そのまま 動かずに 聞くのです
あなたは 剣が 持って いますか
ひよ

あなたの家の
大切な娘を
あの 何処の馬の骨とも
わからぬ流れ者の
ダンピールに預けて
よかったのですか？
あの男は
そんな人
じゃない
これは違い…
おっと
……

こちらは少し
手を加える
必要があるな
こちらの女は
粗描きへの
説得だったが…
まあ
効果はある
じゃろう

あの女…
何かの術にかかっているな
ドクドク
ドクドク
ドクドク

魂のなくなった肉体への妖魔の侵入を防ぐため
死体は塩水で洗い浄められ血管には清水が通される

そして封魔の印章を十六方位に貼り付けた
結界の中で一晩を過ごすのだ

鉄の棒を下げた
50近い
髭だらけの男
話が
あるって
おれに
用か？
お初に
お目にかかる
おれは
〝国王（キング）エグベルト〟
ギリガンの
世話になっていた
5人のひとりだ
今は独りで
動いておる
おれ以外の
二人が世話に
なったな
…

おれは
こそくな手段が
嫌いでな
話し合いも
せんのか？
ええっ
戦うのなら
正々堂々と
いきたい
おぬしが
黙って珠を
渡して
くれるなら
それもせずに
済むが…
何処で
やる？
珠なら
渡せん
ならば
殺し方
あるまいな
うむ
惜しい
では
そこまで
付き合って
もらおうか
ooo

おかしいかな？
これがおれの王■よ
王国？

ところで
おれが勝ったら
珠を貰える
わけだが
どこを
探せばいい？
スッ
ドゴォ
うむ
では
ーいくか
ガシッ
ガシッ

ざざざ…
…うっ
―吸血鬼（ヴァンパイア）ハンター〝D〟

だが
おれは覇王
エグベルト
この剣のまえに…
そうくん

10倍の
重力は!?
どうだ
ハンター?

おおー!

これは 時！
龍刀が 我が
今度は 海が
おれを守っておる
ここまで
来れるか
ハンター？
はは
ようく
見ろ!!
まだまだ
あるぞ
魂が王龍の
喰えや！

必要ならば
山もつくるぞ
小も
ズズズズズ
いいや
現金見もな！
左手は
使えん
左手が
使えぬ？
舐めるな
――左から
かかれ！

何だ
あの左手は？
金で
吸い込んだ
だと…!?
ヒュオオオオ
ッ
ッ
ッ

仲間に伝えろ
あの珠はおれの懐にある
欲しければおれを狙えとな
おまえは殺さん
……伝えよう

あなたが
開かけている
間に
誰かが部屋に
忍びこんだ
みたいなの
あれは？
それは
あたしが
トアの鍵に
開かくっつけて
あったから
ロクなく
暮して
入ったの
まったく
騒々しいのよ
もう少に
入って
ろ——

どこにもいないのよ
窓には鍵をかけてあったんだけど
犯人はわかった
これは今朝
ベトッ…
お祖父さんに化けていた叔の皮膚と同じものだ
すると——あの偽者が珠を盗みに入ったの？
目的は違いあるまい
じゃあどうやって中に？
それはわからん
納屋には誰がいる？
コトフさんよ
ヘ？

異常なしね
ぐぐ
血を流れて行け
これでは後に立たん
かぶ

スッ

間違いかな？
わからん

あら

こんなに早くから
——まだ寝ていればいいのに
海賊が終わったらひとつ頼みがあるのだが

貴族の
別荘地まで
ずっとこうよ
自ら作ったものが
自分たちのところへ
戻ってこないように
このへんは
魚の宝庫なのさ
時に夏の一週間は
海流の向きまで
変わるせいで
数えきれない
くらいの
骨頭がおしよせる
中には
物騒なのも
いるけどね
――どう
したの？
なんでも
ない

農奴の
労役場よ
農地は
のべ60万平
住んでいた
農奴の数は
ざっと1万だと
「館」から来た
学者が言ってたわ
モヤ…

マインスターの
城は近いのか？
やっぱり
静かだねぇ
……
歩くと
30分ほどね

いくら
上っても
変れないの
ね 面白い
階段でしょ
重力制御装置が
壊れているせいだ
千年も
前の？
寒い事
するのね
貴族って…

時々
わからなくなる
ときがあるの
この辺りに
来るたびに
思ってたのよ
来たことが
あるのか
子供の頃
何度かね
いい
度胸じゃ
？
こんな凄い
私たちには
想像もつかない
文明を持っていた
人たちが
他の人間の
血を吸ったり
奴隷みたいに
扱ったり
していたなんて
そうじゃ
ないのは
わかってるけど
私

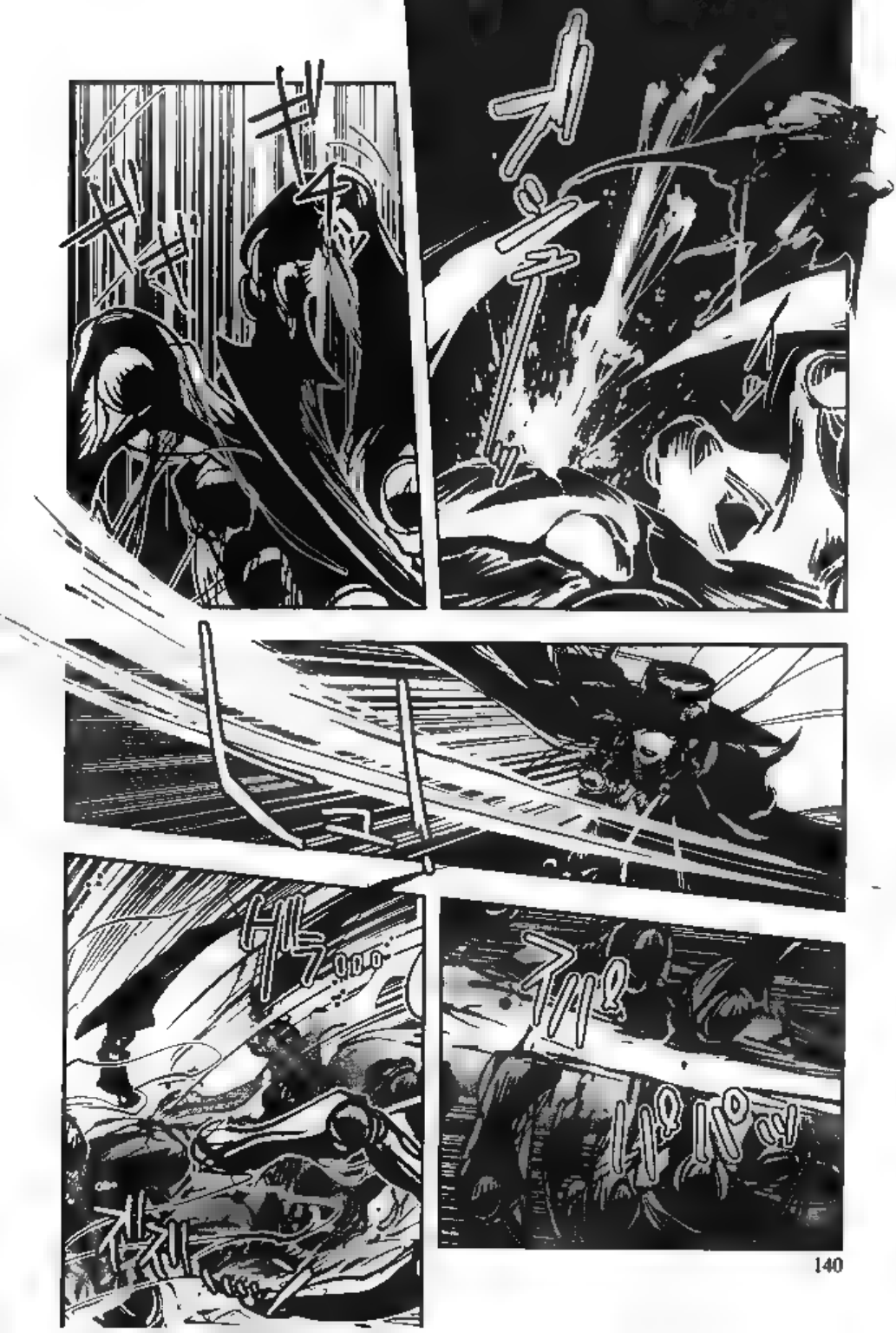
私の代じゃ無理かもしれないけど
そうだな…孫か曾孫の時代くらいには…
ひょっとして今…？
あれ？
ねえ？
スーイン
はいっ

ヒッ
ひけ
そこの
木陰へ入れ
来い

ガキン!
ガキン!
ガキン!

……
貴様だ？

ゼヒ
#4


ガッ
ゲフッ…
ドスッ
ファ!
ハッ ハッ

ハシュ
ヒュー
D
少し待て
ヴァルム

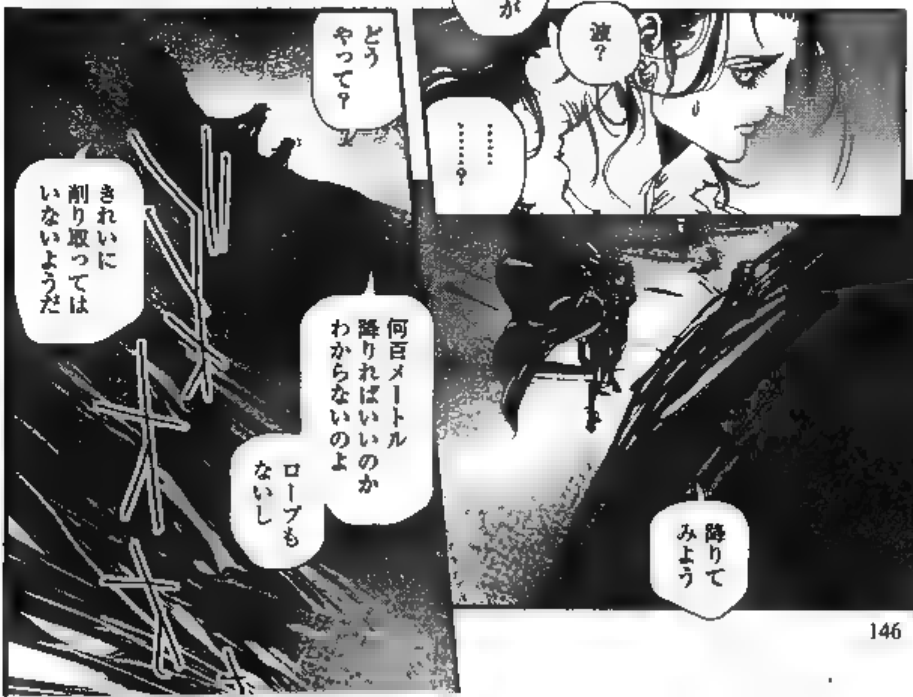
ひどい怪我
でも 柔かったわね
血はすぐ止まる
ポト…
私…身動きもできなかった
わからん
いまの奴——何者？
5人組のひとりかもしれんが違うかもしれん
行こう
フッ

なんて
大きな穴…
いったい
どれだけの
深さが
あるのかしら

…城の中をくり抜いてある
不思議

黒マントを着た男…

仲間の貴族さえ恐れた悪魔を誰がここまで徹底的に滅ぼし尽くしたのかしら
何ひとつ残っていないわ
残してはいけないみたいに

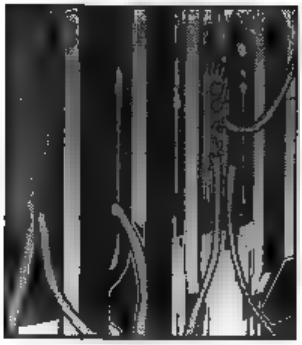

波の音がする
波？
……？
どうやって？
きれいに削り取ってはいないようだ
何百メートル降りればいいのかわからないのよ
ロープもないし
降りてみよう

ここで待て
まさか——素手で!?
行くわ
落ちたら拾えんよ
…あなたと一緒なら大丈夫よ
……
背負って
つかまれ
!?
えっ

嘘！

ドドド

ピチャン
どのくらい降りたんだろう？
真っ暗
あっ



……
マインスターの
ものね？

ここは
海の底だ
まず
2千メートルは
ある
地の底と
いってもいい

！

誰が
こんな…
マインスター
男爵が
生きのびて
いたの？
それとも…

大きい…
D…
あっちにある
アレは…
あれも
マインスター？
それとも
あの…
黒マントの
男が…？
ここに
いろ
…

やあ
ジャブ
ズズ…
懐かしい場所なのでついひと泳ぎしたくなった

懐かしい場所か
すべては海から生まれた
だからここにも海が必要だった
おまえはここで生まれたのか？
そういうことだな
ところで
……君がDだな？
そうだ
初見参だ
名乗っておこう
わたしは雲見
君がやり合ったシンとヴィンの仲間だ
おまえをつくったのはマインスターか彼か？
君と闘う気はない
今は昔を懐かしんでいたい気分なのだ
――だが私は自分の意志でここにいる

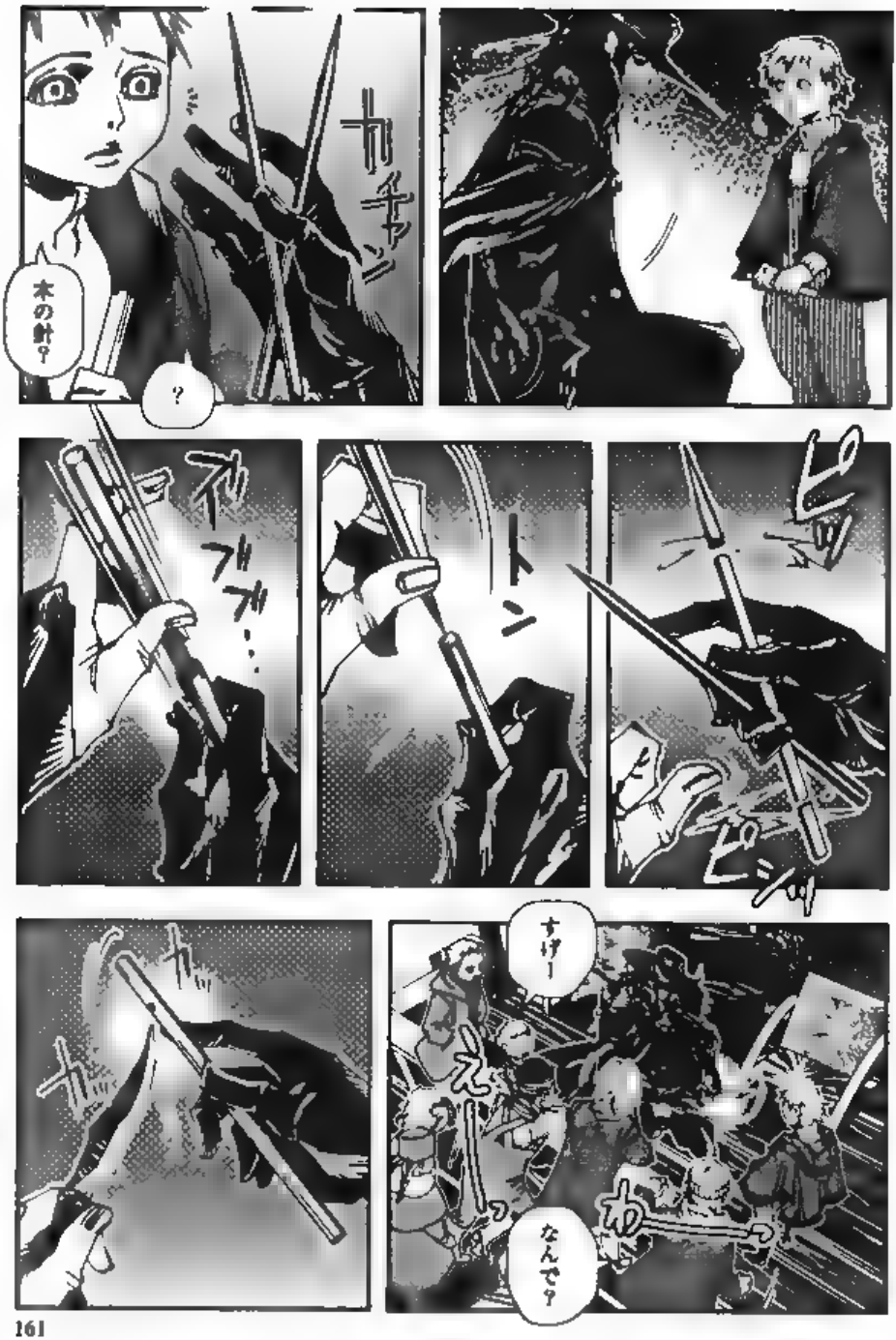
ボコ
ゴボ…
――生んだのは
マインスター
男爵だが
ポン
ニヤ
完成
したのは
あの方だ
……

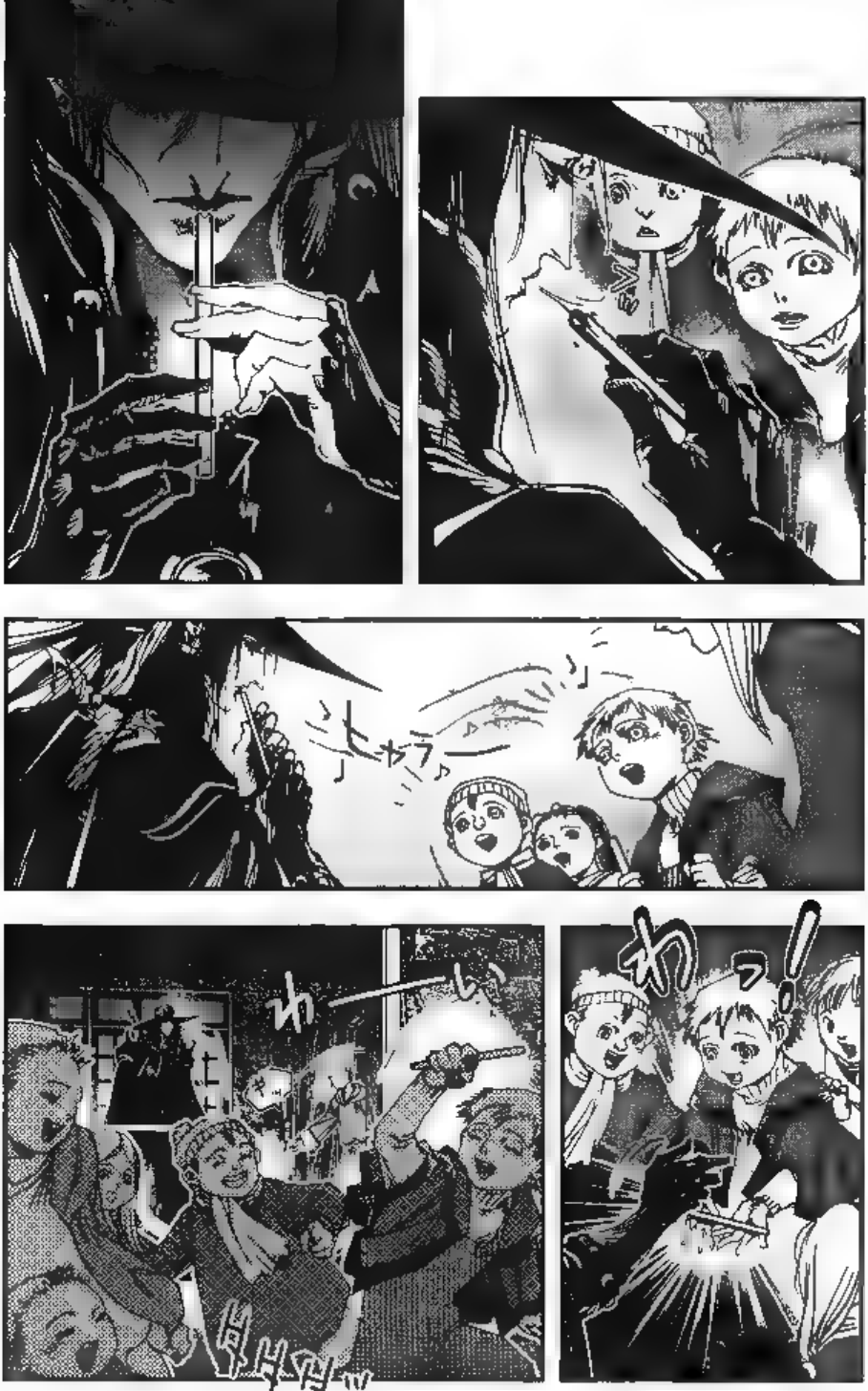
村の者か？
落っこちた
みたいじゃの
さっと千年は
前かの…
ずいぶん
古そう
じゃが…
落ちたのよ
落ちた
のね
――岬から
……刺されて……
胸を……

裏ろう
胸に傷なんてないぞい
誰の話をしておるんだ？
……

どうしたの？
帰らないの？
たたた

どうした？
…ヒビが入っとるの


カチャン
木の針？
？
ブブブ…
トン
ピ
ピ
すげー
なんで？


ヒュー
わっ！

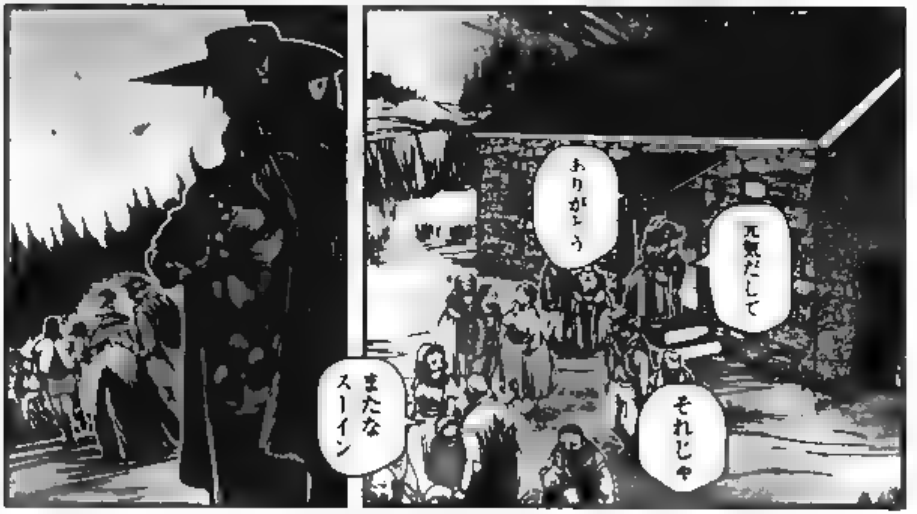
どうだな
用心棒だか
殺屋(ヒットマン)だか知らぬが
剣呑な仕事は
一切やめて
ここで子供相手に
骨を埋めては？
――はは
これは冗談
子供
これを吹いて
みるがいい
ピィ～ヒョロ～
懐しむらくは
音色に
乱れがある
ヒャラ～♪
フム…

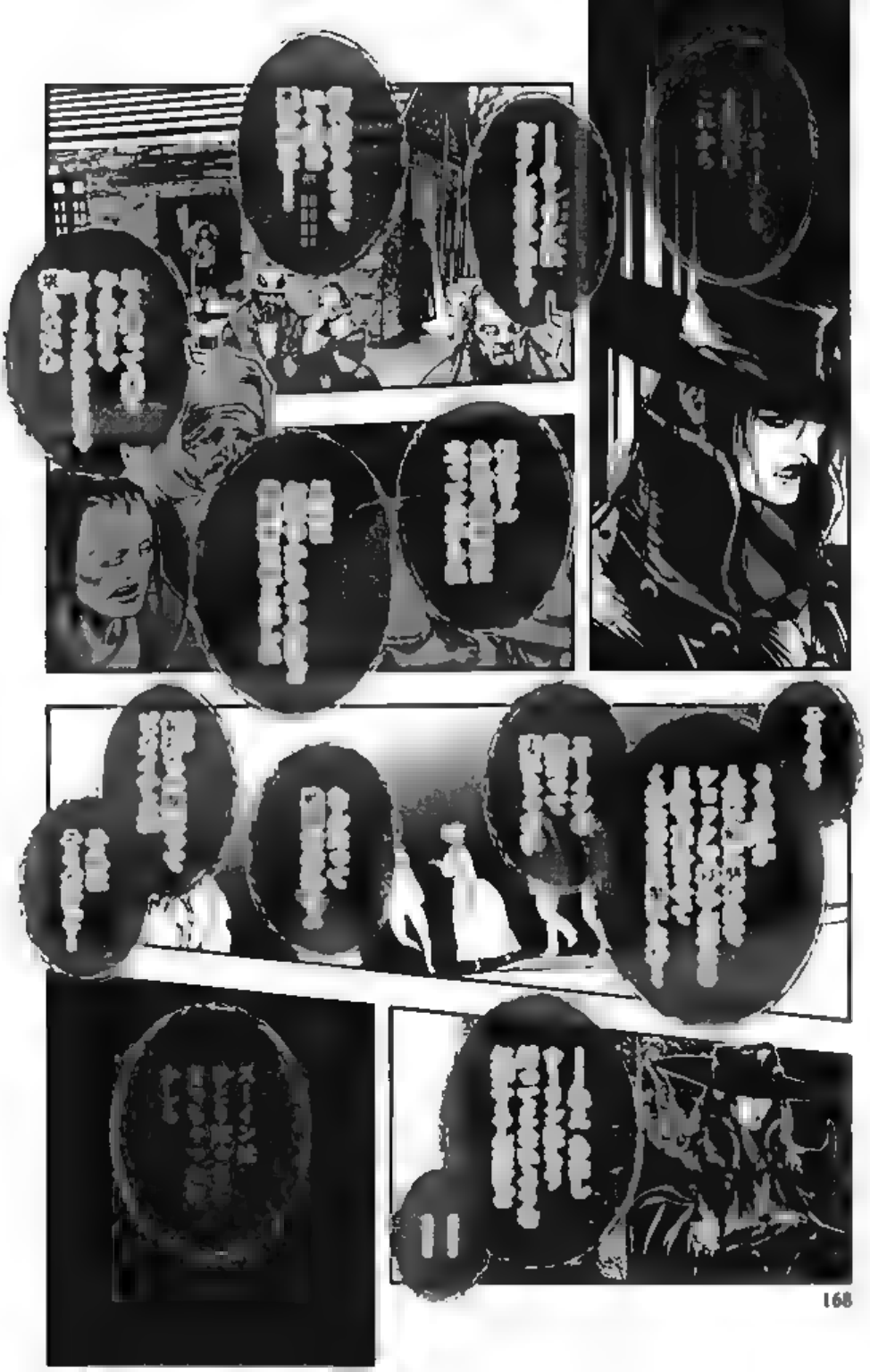
子供の頃に
その思い出は
少々苦痛じゃろ
ずい、
さ、試して
みるがいい
装填
D
ほっほっほ

ポポポ
むむむ
いかんぞおぬし
自分の鍛さを
過力でカバー
しようと
努めるのは
よくない
ハンサムは
万能では
ないのだ
あと5年
最悪より
子供の気を
引きたければ
その剣を捨てて
この村で暮らせ
おぬしなら
誰にも負けぬ
立派な村長に
なれるだろう

あの坊主め
なぜかおまえに
敵意を持って
おるぞ
しかし
個性的な奴だけに
育っておることは
面白い
どうだ
この村に
腰を落ち着けて
漁師の親分に
でもなるか？
……
……おい
照れと
言わんのか？
漁師の
ボスか
――それも
いいかも
しれんな
…
ちょ…
安心したぞ
ここで
やめられては
敵わん

キャリ
おまえの
行くところは
骨に死の影の谷で
なくてはならん
旅はまだ
つづくのだ


元気だして
ありがとう
それじゃ
またな
スーイン

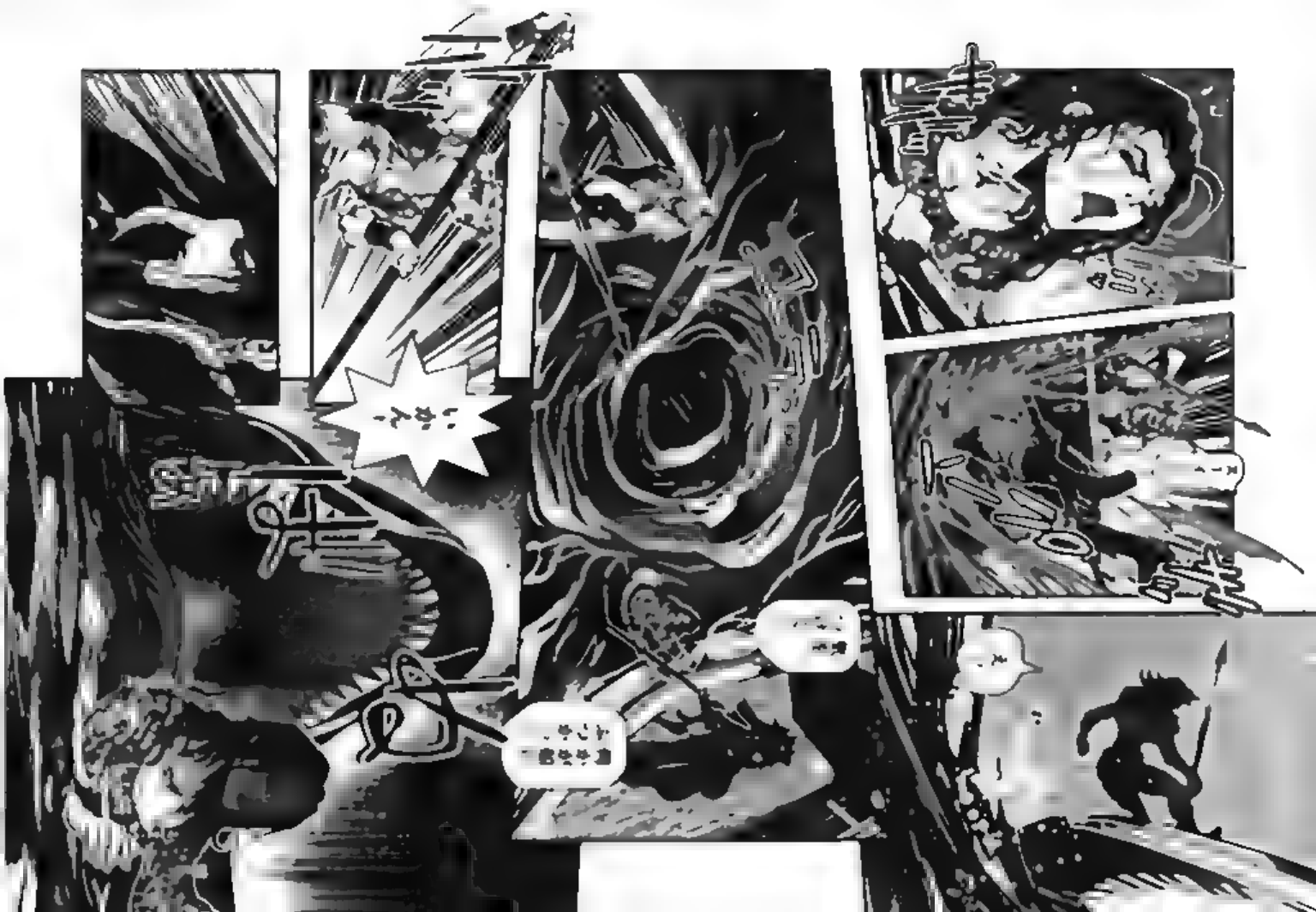


なに
[redacted]
してるのよ
ヒュ
夕方まで
お役済みよ
私 海へ
出るわ
これから
か？
夏も
近いわ
少しでも稼いで
おかないとね
おれも
行こう
えっ
でも
昼間は…
ダンピール
は…
わかったわ
でも
陽でじっとしてて
ちょうだい

ヒュッ
ダイオウシャチだよ
首と胴の間のくびれが急所さ
スーイン！
男がやってもなかなか当たらないんだよ

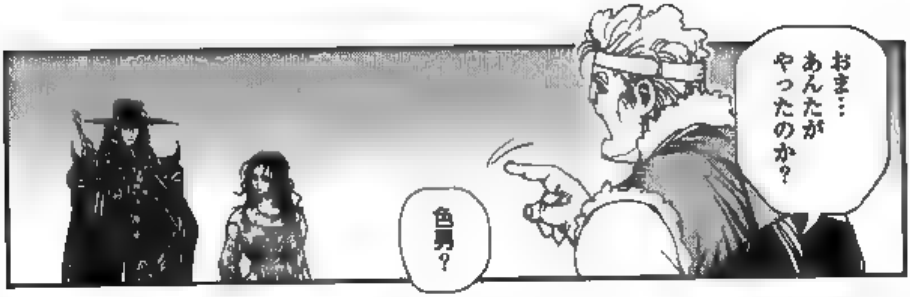
いいとこで会ったな色男
ドワイト？
おあつらえむきの舞台だ
おれと勝負しな
ギョー！
おれは漁師だ
何言ってるの？
海の上じゃおれのやり方に従ってもらうぜ
これから1本だけ銛を投げる
それでデかい方を撃った奴が勝ちだ

おまえが負けたらさっさとスーインの家から出てってもらおうかどうだい？
勝負を受けるのかい？
それとも逃げるのか？
受けよう
あなた…ちょっと待ってよ
馬鹿なことしないで
ドワイト！
私の惚ってる人におかしな真似したら承知しないわよー
おまえにゃ関係ねえ
これは男同士の話だ
このトンチンカン！
ひっこんでな
!?



どうだ 船長？
おれは――
なあ スーイン
海の男は 剣じゃねえ
波の上の 力量よ

2頭!?
!
銛が2本…
1本はおれのだが…
もう1本…2頭いっぺんに…?
あれはスーインの銛……


おま…
あんたが
やったのか？
色男？

信じられ
ねえ…
2頭まとめて
しかも
どっちも急所を
貫くなんざ……

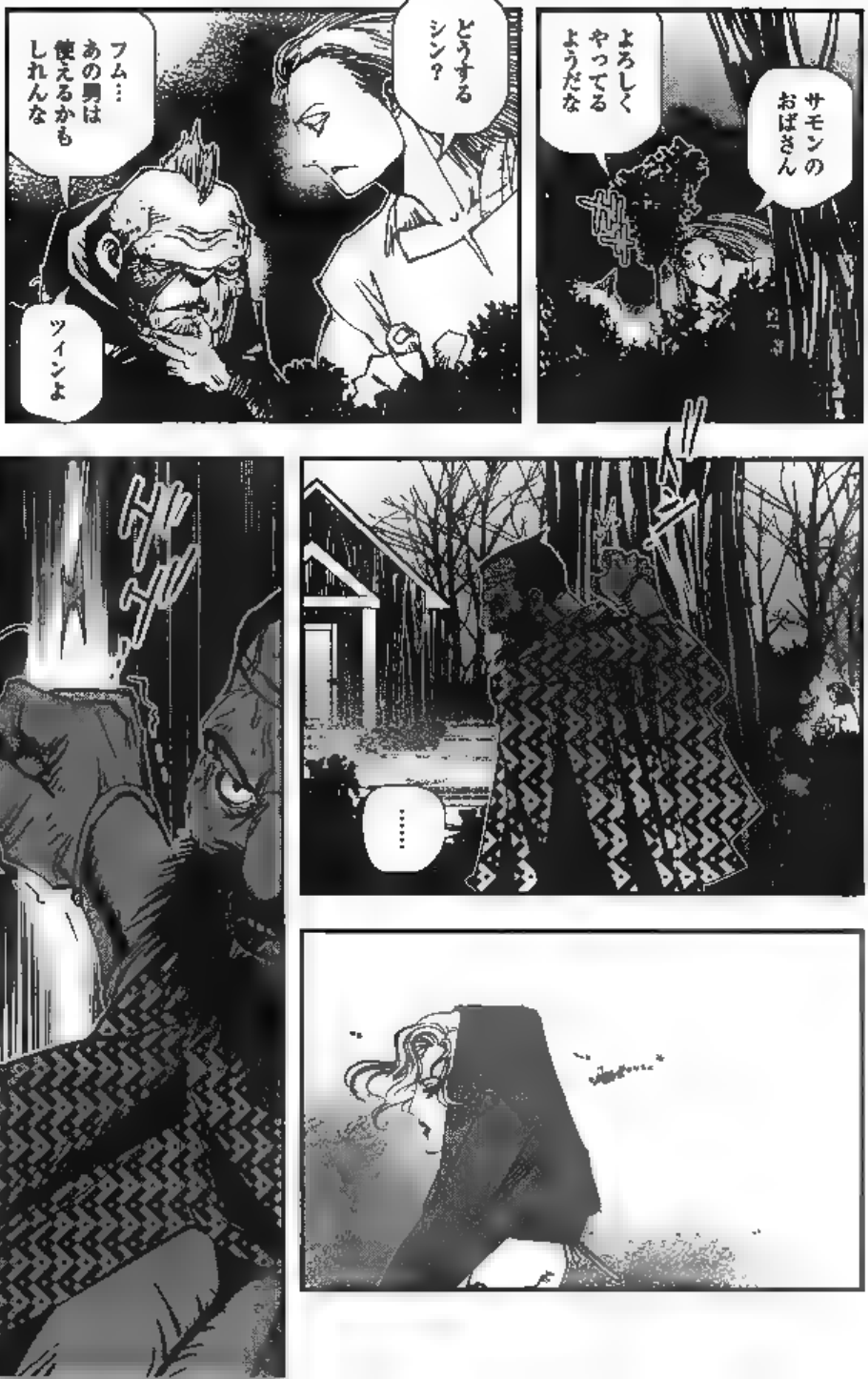
へっ

あっはっ
はっは
こいつぁ
すげえぜ！
？
なんなのよ
男って…

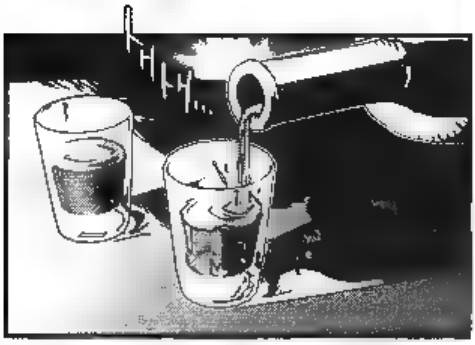
おまえは
俺のものだ
おまえの命を
救ったのは
オレだと
いうことを
忘れるなよ
ん…っ

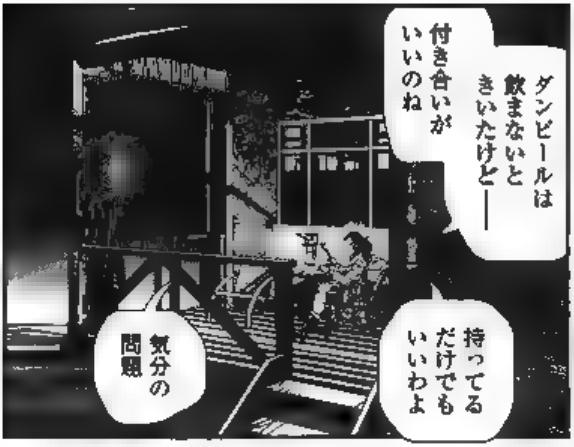
面白い事をするな
女に手傷を負わされたのはじめてだ
それも自分の女に
私はおまえの女ではない
何度寝ても同じだ
では何だ？
借りがある
返すまでは好きにするがいい
ほう いつ返す気だ？
私がその気になったときだ
どうやって返す？
それも私が決める

修行者よ
…お前
あのハンターを
狙っていると
言っていたな？
急いだほうが
よいぞ
私の
仲間たちが
先を越しそう
だぞ？
お前には
関係ない
……
ハァハァ


サモンのおばさん
よろしくやってるようだな
どうするシン？
フム…あの男は使えるかもしれんな
ツインよ
……

D？
ね一杯やらない？




ダンビールは
飲まないと
きいたけど――
付き合いが
いいのね
持ってる
だけでも
いいわよ
気分の
問題

右手はいつも
あけておく
――剣士の
心得？
以前
村に来た連中も
みんなそう
だったわ

君は
身を隠せ
何処
へよ？

ドワイトなら
相談に乗って
くれるだろう
変な
勘ぐりは
しないで
珠はおれが
持っていると
奴らにも
わかったはずだ
君の役割は
後 人質
しかない
はっきり
言うわね
でも
いやよ
逃げ隠れ
なんて真っ平
妹を
殺した奴らが
相手なら
なおさらよ
あなたのおかげで
大物を3頭も
仕留めたから
夏の間は
漁に出なくても
生活の心配はないわ
学校にも
出ます
……
調教は
いつからだ？

明後日
明日
校舎の
落成式が
あるわ
何を
教える？
興味が
あるの？
ふふっ
――当塵は
数学と社会
ん～
社会は
歴史か？
いえ
地理よ
よかったら
あなた
教えて
くれない？
お祖父ちゃんは
話だけは
上手かったん
だけどな…
歴史
だったら…
お祖父さんは
催眠術で
人助けを
したときいた

"人殺しの人が
お父ちゃんの刀で
人を殺すなんて
なんて事を忘れたわ

大したことが
でもわかりっこ
ないよ
お父ちゃんが
できたのは
"海っていい所"を
レクチャー
することだけ

十分だ
ただ哀しむ
よりは
そう
思う?

優しい世界に
泣きながら
言っていたの

理由は
わからない
…でも
わかるような
気がする

…どうして
そんな眼で
私を見るの？
お祖父さんは
ずっと術を
使っていたのか？
そんなことが
何度か
重なってから
きっぱりと
やめたよ
……
…あ
……
そうだわ

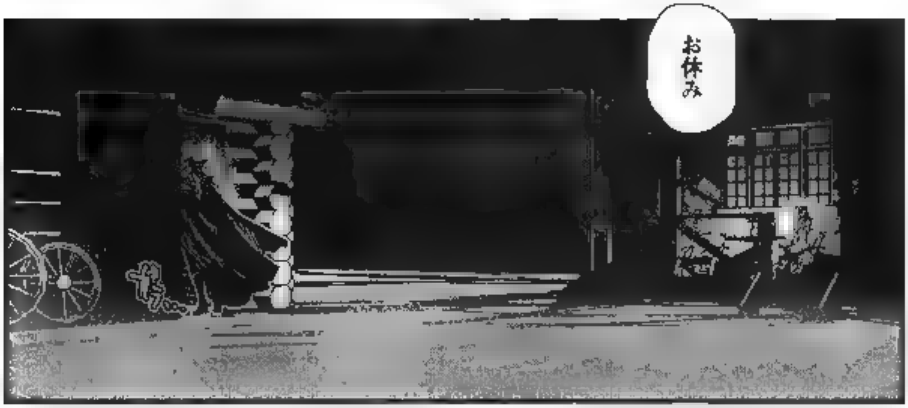
お祖父ちゃん
もう5年も
催眠術使って
ないね
3年くらい前に
一度だけ
かけたことが
あるよ
いや
誰に
使った？
待って
―確か
訊いたのよ
そう
でも
答えてもらえ
なかったわ

それ以来 気になって いたんだけど
心当たりは あるか？
いいえ
格闘技は 誰に教わった？
フェリーでの 技を見た
何年かに一度 海賊団の襲撃を 防ぐ為の出撃に 来てもらって…
ああ あれね
子供の時 村で戦闘ごっこを
私 女子の中では 一番覚えが 良かったらしいわ
男でも ああはいかん
教わったのは 一度だけか？
いえ 何度か…
最後に 教わったのは…

……
やだ 酔ったのかな…？
何年前だったかしら？
…あれ？
そうするわ
そうね
もう 裏たまえ
D

何でもないわ
いい名前ね

どうした？

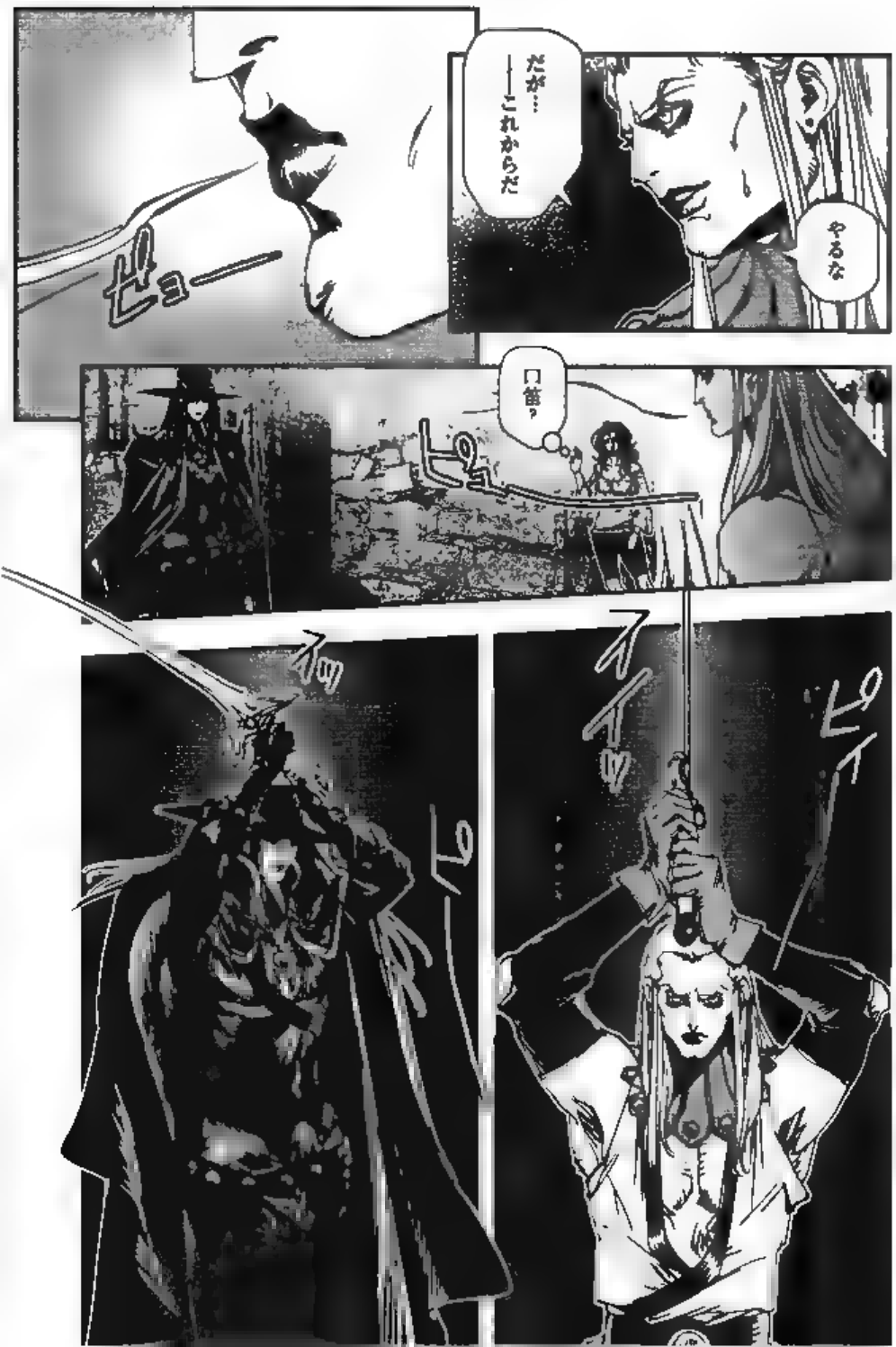

お休み

フェリーの
ひと
あの…
久しぶりだな
おれの用はわかっているはずだ
奴を呼べ
何のご用でしょう？
おまえにはない
Dは――納屋か？
まだ眠って…

D
塚らんな……

理由も訊かずに戦う気になっているとは…
さすがただひとりおれを脅えさせた男…話が早いぜ
怨みっこはなしだ
この手でお前を斬るまでおれは自分が許せない
おまえを見てすくんでしまった自分を
他人に恐れを感じた自分を

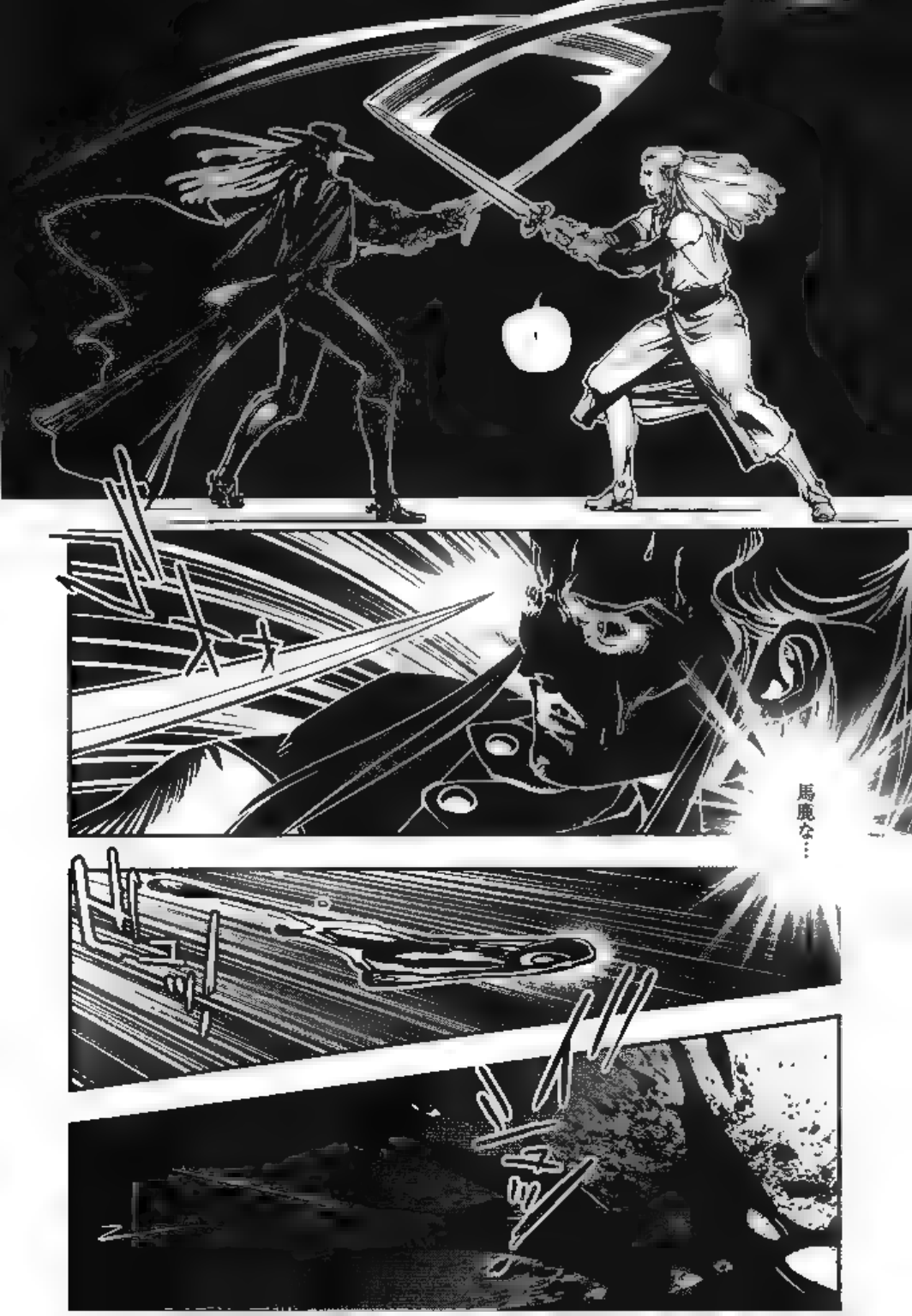
そんな理由で殺し合おうというの!?
ひとつだけ言っておく
おれとおまえたちの周りをうろつくおかしな奴らとは一切の関係がない
チャキ
わかっている

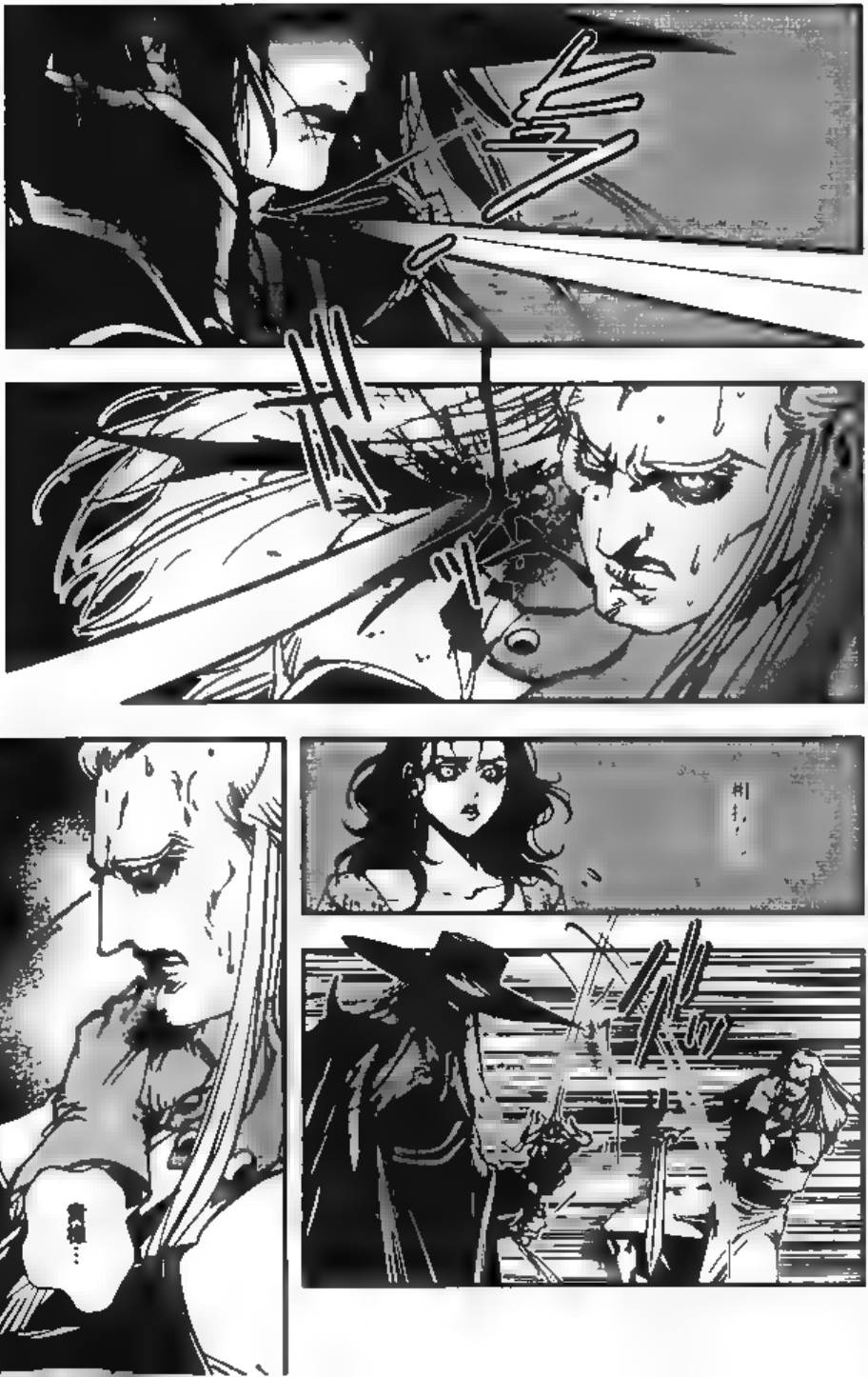

やるな
だが…
――これからだ
ヒュー
口笛？
ヒュー
ヒュー
ヒュー

…よし

剣技にしては
おかしな名だが
おれは
気に入っている
「ローレライ」だ
おれを
負えさせた
男――
いや
おれより
美しい男

許せんな


馬鹿な…


剣士

なぜだ!?
ギリ
ローレライ一の
術中にはまれば
おれと同じ動作を
おれより速く
とるはずだ
奴の剣さばき
おれより速いと
いうのか!?
ねと
……おれの
負けだ
誰だっ
余計な
マネを…
誰か…?
やはり
先回り
されたか
おかしな悪魔が
入らぬうちにと
やって来たが

仕切り直しだ
お互い傷は浅くはないはずだ…奴も…
――また会おう
おれは構わん
！
続けるというのか？…馬鹿な！
な…に…？
――先生？

いらっしゃい
子供に礼を言わねばならんとはな
ヒソヒソ
ハァ
ハァ
ハァ

……
せんせー
またねー
怪我は？
ハァ
ハァ

大した
ことはない
よかった
あ そこ
気をつけて
その救命胴衣
すぐ膨らん
じゃうから…
ん?
今の
あなたの声?
しゃがれ声?
噛を
やられてな
うぐ
断られた
でしょ?
見せて
ちょうだい
ちゃんと
手当て
しなきゃ
大丈夫だ
止血帯
だけじゃ
駄目よ
私
傷病には
詳しいのよ
看護専門
だけど
ぴ!

…そういえば
貴族の
別荘地って
ゾク
……
治ってる
そんな――
信じられない

子供たちは
気がついたか？
え？
ええ
何とか
ごまかしたわ
あなたもあの人も
落ち着いてたから…
子供たちも
よくわからなかったと
思う

やはり
住まいを変えた
方がいいかも
しれんな

…わかったわ
つまらない
意地は
張らないことね
…学校も
辞めた方が
いい？

子供たちよ
言ったでしょ
今日は学校の落成式だって
何時からだ？
あと30分
では式へ出てからにしたまえ
おれは血の臭いを消しておく
よかった

だだだだ!
行きなさい
おれは男で
待っている

おれだ

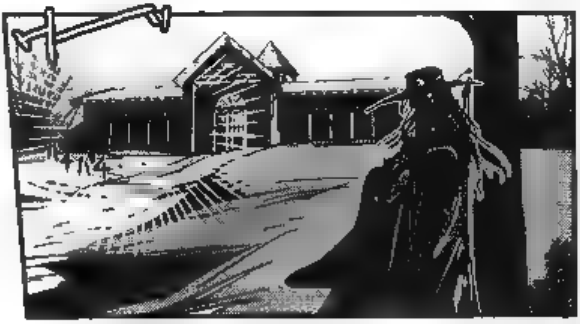
不思議ね
冬なのに
ここへ来るまで
ずっと
花の香りが
していたわ

臭い消しを
使いすぎた

…じゃ
行ってくる
わね

待っておったぞ
この村ではじめての学校だ
村長さん
一番の功労者が遅れては何もはじまらん
さ 今日は挨拶だけだ
中でみんなが待ってるぞ

一席ぶったらすぐにパーティーだ



色男
――なに
不貞腐れてんだよ
ハンサン

来なよ
その通り
わしのような
生臭坊主が
オーケイで
スーインの家人が
お払い箱という
法はあるまい

雇い主の
晴れ姿ぐらい
見ておくが
いいぞ

来なよ

ダイオウシャチを
2頭まとめて
仕留めた男に
誰も文句なんか
言わせねえ
がはーん!
おれたちゃ
大歓迎するぜ

みんなで
楽しく勉強
しましょうね

ありがとう
それでは
パーティーじゃ
イ!
来てくれて
嬉しいわ
呼ぶつもり
だったの
でも
嘘がるかと
思って…
わかって
いる

ありがとう ドワイト
霊暁さんも ありがとう ございます
ジュースだが 一杯やれよ
ホク
しかし なんて色男だ
教師向きでも ねえなあ
どうだい
ここだけの 話だが 船に乗って みねえか？
ドエー…

あんたくらいの腕がありゃたちまち村いちばんの漁師だ
いや他所の村にもそんな優男はいやしねえ
半年もしねえうちに辺境のクソ貧乏村打ちになれるぜ
どうだい？
おれは人を探している

女――じゃねえよな？
そんなタイプじゃねえ

そんな気はしてたんだが…なんとなくもしや と思ったのさ
気を悪くしないでくれ
お七ちゃん！
漁師になれと言われたのははじめてだ

あのさ…まだあの作ってくれた笛持ってる？

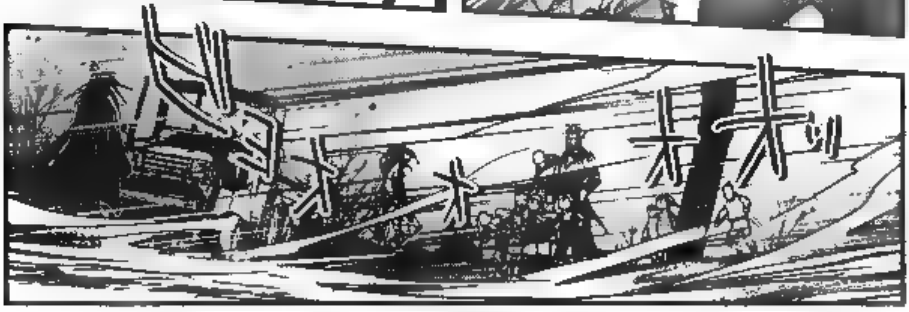
わーい
ありがとう！
ねぇ？
作った？
ねぇ？
ズッ
あの
お坊さんのは
どうした？
うわ
いいな
ああ
あれね——
すぐ
壊れちゃった
んだ
ずるいや
ひとりだけ
お坊さんが
この村にいる間に
頼んでおけ
きっと
たくさん
こしらえて
くれるだろう
うん！
はいはい
おねがいしまーす!!

行くか？
ええ

なんだ
もう
さよならかよ
おまえまで
付き合いが
悪くなっちゃ
救いがねえぜ
ごめんね
また

明日から
学校？
ねえ
先生
明日から
学校？
せんせー

じまだよ



変じゃのう
変だ
さっきからなんだか花の匂いがするぜ？
フフ…
女の香水とは違うの
最近は「男」なんかで男モノも出てるって話だ
雑貨屋か治安官だろう
男の風上にも置けねえ
後ではり倒してやるぜ
おれだ
じゃあまたね

ぷっ
ひ！

おかしな奴らがあの珠に群がっているらしいが
所詮は無知蒙昧な童人どもだ
人は殺せても化学記号ひとつ読めん
宝の持ち腐れよ
あの珠の持つ途方も無い意味を理解し利用できるのは
この世にわしひとり――
では二人にしてもらおうか
誰だ!?
…サモンにおかしな術を使ったのはお前だな
誰だな？

お初に
お目にかかる
わしは
"傷傷のシン"
きいた
ことが
あるか？
ああ
そちらこそ
おかしな術を使う
戦闘士と
きいている
わしは
クロロック
教授
といっても
宿代にも
事欠く
旅の絵師だが
何の用だね？

とぼけるな
おまえも珠を
狙っているので
あろう？
先ほども
何やらひとりで
つぶやいて
おったではないか
確かにわしは
化学記号の
ひとつも
あの珠の謎も
知らん
おぬしの知識で
物識りに
してもらおう
嫌とは
言わさん

しても
いいが！
さっきから
何を描いて
いる？
待て

なあに
ただの
絵じゃよ

いいか
ヒゲ
脱ってここを出て
誰もいない
岬へ行って
身を投げろ
情実に
死ぬのだぞ
逆いではならん
死体は当分
見つけられないよう
潮の流れの
強いところを選べ
なにっ
承知した
だが
わしは
見えまい
おまえの術は
わかった
どうして
くれようか
小賢しい
マネを

待て
待て
おまえの
知りたいことを
話そう
わしも
そうそう
死にたくは
ない
よし
話せ
ただし
こちらを
見てはならん
わかった
：では
聞け
のそっ…
――こうた
：まさか

…それが
本当ならば
おまえは
狼さん

いいや
狼ではない

…だが
長くてわしの
もとからは
狼さんや

ほれ

わしの
からくりだが
命を刻む歯車も
備えておる

いくら
おまえでも
首の後ろは
見えまい

おまえが
何処にいても
この歯車を通して
わしはおまえの
動きを知り
声をきく

お互いのために
時間はよすがよい

——そう
せめて
わしが老婆に
なるまでは…

せめて——

博物館
資料室
私が館長ですが…
コツン
……

誰だ？
ようやくわかった
——女？
ああ…
おれは…
行かねばならん
ああ

ザブ
ザブ
ニヤリ
スッ

To be continued

今日も大物獲れたぉーっ!!
ウーナン!おじーちゃん

おねーちゃん!私もがんばったのぉ!
ばた
ばた

ボシュッ!!

TAKO-YAKI

COMIC コミックフラッパー
FLAPPER

Hideyuki Kikuchi's Vampire Hunter D Volume 7
Adapted and Illustrated by Saiko Takaki
Copyright © 2013 by DIGITAL MANGA,Inc. All rights reserved. Original story and characters created and copyright © Hideyuki Kikuchi 2013.
All other respective characters are registered trademarks of DIGITAL MANGA,INC.
Originally published in the U.S.A. by DIGITAL MANGA,INC.
Japanese Edition Rights under license granted by DIGITAL MANGA,INC.

MFコミックス
バンパイアハンターD 7

発行　2013年7月31日　初版第一刷発行

著者　鷹木骰子

原作　菊地秀行

発行人　三坂泰二

発行所　株式会社メディアファクトリー
〒150-0002
東京都渋谷区渋谷3-3-5
電話　0570-002-001
（カスタマーサポートセンター）

印刷・製本　大日本印刷株式会社

乱丁本、落丁本はお取り替えいたします。
本書の内容を無断で複製・複写・放送・
データ配信などをすることは、かたくお断りします。
定価はカバーに表示してあります。

©2013 Hideyuki Kikuchi, Saiko Takaki
Printed in Japan
ISBN 978-4-8401-5079-8 C9979

コミックスのアンケートは
http://mfe.jp/wem/
こちらでアクセス!

お答えいただいた方全員に、コミックスで使用している画像の無料待ち受けプレゼント!

※サイトにアクセスする際や、登録・メール送信時にかかる通信費はご負担ください。
※アンケートにご回答いただいた内容を第三者に開示することはありません。
※一部機種では対応しておりませんのでご了承ください。